



写真左下：岸隆一さんの代理として妻の寿子さんが表彰状を授与

やまがたフラワーフェスティバル 2023 品評会にて岸隆一さんが東北農政局長賞を受賞

令和5年10月13日から15日の3日間、新庄市の「すばーていあ」で「やまがたフラワーフェスティバル 2023」開催に合わせて「花き品評会」が行われ、岸隆一さん（満澤）のりんどう（ハynesスカブラ）が東北農政局長賞を受賞しました。令和6年1月18日の第24回やまがたフラワーセミナーにおいて表彰式が行われ、妻の寿子さんに表彰状が授与されました。

町内では、花き生産部会を中心に気候に適した作物として町花「りんどう」の生産が盛んに行われています。



▲紅梅荘での様子

最上校企業訪問ツアー

12月14日、新庄北高最上校1年生による町内の企業訪問ツアーを開催しました。わらべ唄の宿湯の原、特別養護老人ホーム紅梅荘、株式会社早坂建具製作所を訪問し会社の説明や、施設を見学させていただきました。普段では見れない実際働いている姿を見学し、今後の進路を選択するうえでとても参考になる有意義な時間でした。

地域ボランティア活動と掃除機の寄贈

1月20日、東北地方郵便局長協会がみ南部会及びその家族会の方々より、あたごこども園の清掃ボランティア活動とあわせその活動の一環としてコードレス掃除機2台を寄贈いただきました。同会は最上町・舟形町・大蔵村・戸沢村の4町村の郵便局長とその家族で構成され、この活動は公益事業活動の一環として毎年取り組まれているものです。今年は当町の幼児施設での活動を持ち掛けられ実現したものです。

当日は多くの方から、施設の窓清掃を行なっていただき、普段なかなか手の届かない高窓や外窓などすべての窓を掃除していただき園内がとてもきれいになりました。

また、寄贈された掃除機はあたごこども園、大堀保育所でそれぞれ大切に使用させていただき、施設内の環境整備に役立ててまいります。誠にありがとうございました。



令和6年最上町新春賀詞交換会

令和6年1月12日、中央公民館大ホールにて令和6年最上町新春賀詞交換会が行われました。はじめに、株式会社片平新日本技研 専務取締役 上坂克巳氏を講師に迎え、「最上のかわみち未来づくり～地域で考える清流小国川とウエストライン 47号の活かし方～」と題し基調講演が行われました。続いて行われた賀詞交換会では、参加者同士が新年のあいさつを取り交わしながら、新年の抱負を語り合いました。



第70回文化財防火デー

昭和24年1月26日、現存する世界最古の木造建築物である法隆寺の金堂が炎上し、壁画が焼損しました。これを教訓に毎年この日を文化財防火デーとして位置付け、全国的に文化財を火災等から守るための取り組みが展開されております。最上町では3日早めた23日に、消防団、広域消防本部、文化財保護審議会の協力を得ながら、富山馬頭観音堂（新田）並びに旧有路家住宅（塚田）の防火パトロールを実施いたしました。文化財は先祖から贈られた大切な宝ものです。文化財を大切に保護し、末永く受け継いでいきましょう。



令和5年度最上地域農林水産業若者賞を受賞

1月24日、令和5年度最上地域農林水産業若者賞の表彰式が最上総合支庁で開催され、高橋孝彰さん（白川端）が受賞されました。

この賞は、最上地域の農林水産業分野で活躍する若者の優れた功績・成果、地域の課題解決に向けた地道な取り組みなどを顕彰することにより、地域の農林水産業の振興発展や人材育成に資することを目的としています。

高橋さんは、最上地域でほとんど生産がなかったシャインマスカット等の大粒種ぶどう栽培を先駆的に始め、アスパラガス、たらの芽も栽培しています。圃場の近くにある大堀保育所との交流や、町給食センターの地産地消事業と連携し、給食へのシャインマスカット提供など地域貢献活動をしています。

スピーチでは、「さまざまな活動を通して次世代の子どもたちに農業が面白いと思ってもらえるように今後も頑張っていきたい」と今後の抱負を述べていました。



道の駅の新たな魅力に

1月16日、道の駅もがみ「あつつえ」にて農林大学校地域協働研究に関する発表・試食会が開催されました。昨年度より、農林大学校農産加工工学科から「最上町産アスパラガス」をテーマとした加工品の研究に取り組んでいただいております。学生は試作品の開発に向け、農協の施設見学や最上町のアスパラガス栽培に関する背景も学習しました。試作品として、かりんとう、シフォンケーキ、焼きチュロスが振る舞われ、商品化に向けた意見交換が行われました。

昨年度に提案された「アスパラガスコロッケ」は商品化し、道の駅もがみで販売され、好評を得ています。

今回提案を受けた試作品も商品化に向けて検討を進めます。

